II　助成グループと実施した体験活動の紹介

助成グループ（五十音順）

1　神戸須磨北おやこ劇場

2　子ども自然村フロンティア会

3　ツール・ド・コミュニケーション

4　特定非営利活動法人ブレーンヒューマニティー

5　ワールド キッズ コミュニティ

グループ名

神戸須磨北おやこ劇場

〔所在地〕　〒 654-0151 神戸市須磨区北落合３－１－３６９－１０６
〔連絡先〕　TEL　０７８－７９３－３００６
FAX　０７８－７９３－３００６

〔グループの紹介〕

おやこ劇場は「子どもの夢と創造性を育てる」文化団体として 1966 年に発足、全国にその運動が広がった。1976 年神戸におやこ劇場が誕生、その後、より地域に根ざした活動を展開するため５劇場に分割、1989 年、ニュータウンとよばれる人工的な地域をそのエリアとする神戸須磨北おやこ劇場を創立した。

（主な活動内容）

・舞台劇・人形劇・音楽・舞踊など生の舞台を鑑賞する。
・子どもの文化の創造・普及・発展のため、講演会の開催や会員以外の人にも舞台鑑賞の機会を提供する地域公演を実施。
・子どもが自主的に考え活動できるキャンプや劇づくり・高校生以上の若者が定期的に集まる場の設定とサポート　等

事業名	表現活動を通じて「子どもと大人の心踊る居場所」を共につくろう！
事業実施期間	2001 年 8 月 25 日～ 2002 年 3 月 24 日

（実施内容）

子どもたちが演劇を通じて表現することの楽しさを体験するために、劇あそび活動や劇づくり活動を行うとともに、活動の集大成として発表会を行った。

①劇あそび活動

○参加者　市営地下鉄の沿線（板宿～西神中央）の小学校１年～３年の子どもたち 22 人とスタッフ

○時期と回数　2001 年 12 月～ 2002 年３月・１ヶ月に２回　計８回

○内容　講師に地元の劇団四紀会の清水章代さんを迎え、身体や言葉を使ったさまざまな表現劇遊び・ゲームなどを積み重ね、自分たちで表現する楽しさを体験する機会とした。

12 月 25 日は、あそび・劇・表現活動センター「アフタフ・バーバン」のみなさんを迎え、親子一緒にいろいろなゲームや劇あそびを体験した。

②劇づくり活動

○参加者　市営地下鉄の沿線（板宿～西神中央）の小学校４年～中学生の子どもたち 28 人とスタッフ

○時期と回数　2001 年８月～ 2002 年３月
１泊２日のしあわせの村での合宿も含め 27 回

○内容　８月～ 11 月【９回】 劇の持つ要素を生かしたワークショップを積み重ね、仲間づくりと表現の楽しさを体験する期間とする。

12 月～３月【18 回】 台本を使って劇の発表にむけての練習期間。
子どもたちの練習と平行して、講師とスタッフとの打ち合わせ・衣装づくり・小道具づくりなどを行った。

③地域の会場での発表

○場所　ピフレホール（神戸市立新長田勤労市民センター別館）

○日時　2002 年 3 月 23 日（土）15:00 ～ 17:15

○内容　劇団星くず「魔法学校―満月の夜に－」その他に、地域で参加を募った他のグループの発表の場とする。

④関わる大人たちの学習会

○子どもの居場所づくりをサポートする大人のための講座　２回

○劇づくり・劇あそびを進めていく上で、大人としての関わりについて話し合った。

（事業成果）

・主に体を使ったあそびと表現を取り入れた劇あそびのプログラムで、おもいっきり心と体を解放した。子どもたちは自由な空間と信頼する大人の中で、表現する楽しさを経験した。

・大人は、決して否定しないことを基本にワークショップをすすめ、毎回意見をいう場を設定したので、自分の言葉で意見を言える子が増えた。

・一つの作品をつくりあげるには、他者とのコミュニケーションが不可欠であることから、その力が向上し、他者の意見を尊重すること・互いを思いやることができた。

・毎回の練習終了時に話し合いを持ち、お互いの演技でもっと工夫すれば良いことやうまくいったこと・練習の態度・自分の課題など意見を出し合うことによって作品に対する愛情や一つの作品を作り上げる仲間としての連帯感が培われた。

グループ名

子ども自然村フロンティア会

〔所在地〕　〒 651-0062 神戸市中央区坂口通２－１－１８
（社）兵庫県子ども会連合会内
〔連絡先〕　TEL　０７８－２２１－４０８１
FAX　０７８－２２１－４０８１

〔グループの紹介〕

兵庫県子ども会連合会の子ども自然村運営に協力することで、青少年の健全育成に貢献し、会員間の連携と資質の向上を図るため、平成５年２月 28 日に設立された。

設立当初は、子ども自然村内の施設づくりやメンテナンスを中心に管理運営に携わってきたが、平成８年からは同施設内での子どもを対象としたプログラムを企画、運営している。

現在は約 70 名の会員が、以下の活動を行なっている。

・子ども自然村内の施設の建築とメンテナンス
・地元行事への参加など、地域住民との交流
・地域の子どもたちを対象とした環境学習の企画、運営
・阪神間の子どもたちを対象にしたキャンプの企画、運営・機関紙の発行など

事業名	めちゃんこたのしい遊び場づくり
事業実施期間	平成 13 年８月 13 日～９月 30 日

（実施内容）

神戸、阪神地域を中心とする兵庫県全域の小学校３年生から中学校３年生の児童を新聞などを通じて公募し、豊かな自然を持つ但馬の森（子ども自然村）で心と身体と知恵を働かせて生活や遊びを仲間とともに体験する野外活動を平成 13 年８月 23 日（木）～ 26 日（日）に実施した。

スタッフは、期間前に野外活動のノウハウや自然教育、安全教育など４回のカリキュラムで研修を受けた会員 19 名と外部からのボランティア６名で組織をつくり、８月 17、20 日に事前打ち合わせ、９月 15 日に事後評価会を実施し、今回の事業から生まれた課題や可能性を検討し、今後の展開を模索した。

キャンプは、小学生 38 人、中学生３人、スタッフ 23 人の合計 64 人が参加し、「子ども自然村」の特性を活かし、電気やガス、時計、水道を使用しない中での野外生活を行なった。

キャンプ期間中の細微にわたるプログラムは用意せず（アイスブレイクを除く）、子どもたちが、生活や遊びをする中で仲間とともに考え、協力しながら活動を作り出す参加創造型の野外活動で、プロセスは以下の４つのサイクルを根幹とした。

①お腹がへるから食事の材料を調達し、つくり、食べる

②食べるからエネルギーが沸き、活動し遊ぶ

③活動し動くから疲れ、休息をとる

④しっかりと休息をとるから次への活力や仲間への思いやりがわいてくる

（事業成果）

・「元気づけ」の視点からは、土の上を思い存分走り回り、渓流で泳いだり、滝から飛び込むなど、自然とおもいきりふれあえることができた。（せみの声をじっくり聞けた、ホタルを見つけたこと、夜の暗さを感じられた、星がいっぱいあったことの驚き、雨を肌で感じる経験、クワガタを見つけた子もいたことなど）

・「居場所づくり」の視点からは、仲間と相談、協力なくしては生活も遊びもできないことから、人とどういうふうに話し合ったらいいかなど、徐々に工夫が見られたり、グループ内での役割の重要性を感じている様子をうかがえた。

・「自発性」の視点からは、前述のとおり、スタッフ側から計画、実行、評価のプロセスを提供していないので、キャンプ中は子どもたちがグループでの生活、遊びを自分たちで企画・運営していた。（生活する場所など、整地したり、屋根をシートでつくったりなど子どもたちの創意工夫が見られた）

・「斬新さ」の視点からは、電気、ガス、時計など一切ストップし、キャンプを行ったことは、子どもたちにとっても驚きが大きかったようであった。

・川の水が濁っていたので、水道だけは使うことにしたが、震災で経験した電気、ガスのない生活は、子どもたちにとって火の大切さにも色々あることが感じられていた。

グループ名

ツール・ド・コミュニケーション

〔所在地〕　〒 653-0052 神戸市長田区海運町３－３－８
〔連絡先〕　TEL　０７８－７３９－５６５０
FAX　０７８－７３９－５６５５

〔グループの紹介〕

1999 年５月、コミュニケーションの道具[tool]（＝パソコン）でコミュニケーションの旅[tour]をしようという思いから「ツール・ド・コミュニケーション」を設立した。

廃棄されるパソコンを回収・再生し、地域活動や市民活動のネットワーク作りや情報発信を支していく「パソコンの市民利用」を推進している。

2001 年１月、市民版インターネットＴＶ「WAVETV」事業の準備に着手した。

事業名	子ども達の手によるメディアづくり
事業実施期間	2001 年 7 月 1 日～ 2002 年 3 月 31 日

（実施内容）

本事業は、地元の子ども会や他のＮＰＯ団体と協力しながら、子どもたちが暮らす街を紹介したり、生活の中から自らの視点で発見したテーマを取り上げて問題提起をしていくビデオ番組を制作し、ホームページで情報発信した。

参加者　小学生 18 人、中学生４人、スタッフ３人、ボランティア７人　合計 32 人

①真陽たんけん隊

自分達の暮らすまち（長田区真陽地区）を子ども達がたんけんしながら取材し、まちの良さや問題を発見しながら取材した情報を番組にまとめ、ホームページを活用して、その内容を発信した。（３本の映像番組を制作）

②在日外国人の青少年が発信する映像サイトづくり

在日外国人の子どもから見た地域社会を彼らの視線をとおして映像番組を制作し、情報発信した。

（スケジュール）

2001 年 7 月　　ボランティアスタッフ映像技術研修期間

7 月　7 日　（以後毎週土曜日）ボランティアスタッフ・ミーティング

8 月 16 日～ 9 月 10 日　第 1 回真陽たんけん隊活動期間

9 月 30日　真陽たんけん隊ホームページ開設

10 月 8 日　真陽たんけん隊作品発表会

12 月 22 日、25 日　在日外国人児童に対する映像作成講習

12 月 25 日～ 2002 年 1 月 16 日　第 2 回真陽たんけん隊活動期間

2002 年 1 月 12 日　在日外国人児童に対する映像作成講習

3 月 10 日　真陽たんけん隊作品発表会

（事業成果）

①真陽たんけん隊（http://www.tcc117.com/tdc/kids/shinyo/）

・子ども達は、自分達の住むまちを取材することによって、これまで関わりがなかった地域の人とつながりができた。

・これまで気づかなかった、まちの良さやその中にある問題点について考えることができた。

・その中で個々が得意な仕事を見つけたり、いままで気づかなかった自分の能力を発揮することができた。また、お互いの意見の違いを受け入れることの難しさ大切さを学んだ。

・企画から編集までの一連の作業に取り組むことによって、何もないところからものを作り上げる粘り強さを身につけることができた。

②在日外国人青少年が発信する映像サイトつくり

・在日外国人の子ども達は彼らの持つ文化的、身体的な違いなどによって日常生活の中で孤独や不安を感じることもあるが、映像の制作活動という場を与え、またその中で大人達が無条件に支えてくれることによって安心のできる場所を得ることができた。

・映像番組制作を始めるにあたって、自らが抱える問題や表現したい気持ちについて考え始めている。自分を見つめ直し、その存在に自信を持つ活動を行っている。

グループ名
特定非営利活動法人ブレーンヒューマニティー

〔所在地〕　〒 662-0832 西宮市甲風園１－３－１２カミヤビル３階
〔連絡先〕　TEL　０７９８－６３－４４４１
FAX　０７９８－６３－５５５１

〔グループの紹介〕

被災した子どもたちや不登校の子ども達などを支援するため、以下のような活動を行っている。

①被災児童支援活動
阪神・淡路大震災で被災した子ども達への学習支援やレクリエーション活動

②不登校支援活動
不登校の子ども達を対象とした訪問学習支援やフリースペースの運営等の活動

③レクリエーション活動
小中学生を対象としたキャンプ、スキーなどのレクリエーション活動

④その他イベントなどの実施
神戸垂水よさこい祭りの企画運営や、フィリピンでの高校生ワークキャンプなどのイベントやシンポジウム、講演会などの企画運営

事業名	子どもたちの稲作体験支援事業
事業実施期間	2001 年 5 月 13 日～ 11 月 9 日

（実施内容）

被災地の子どもたちが農村の子ども達との交流を深めるとともに、自然の大切さを理解するため、棚田稲作体験活動などを行った。

①棚田稲作体験
「日本の棚田百選」の１つにあげられている滋賀県高島町の棚田で、町役場に推薦していただいた農家の指導のもと田植え、草刈り、稲刈り作業を行った。

○実施日及び参加者

田植え	2001 年５月 13 日	小学生 21 人、	スタッフ 22 人	合計 43 人
草刈り	６月 24 日	小学生 18 人、	スタッフ 16 人	合計 34 人
稲刈り	９月 16 日	小学生 42 人、	スタッフ 27 人	合計 69 人

②キャンプ

琵琶湖畔のキャンプ場で、キャンプファイヤやカヤック体験、石ころペインティング等を行った。

○実施日　2001 年８月 22 ～ 24 日（２泊３日）

○参加者　小学生 16 人、スタッフ 22 人　合計 38 人

③高島町の収穫祭への参加

稲刈り終了後、高島町の棚田収穫祭に参加し、地元の方々と交流した。なお作成した案山子５体を案山子コンクールに出展した。また、当会スタッフもかき氷店を出店した。

○実施日　2001 年９月 16 日

○参加者　小学生 42 人、スタッフ 27 人　合計 69 人

（事業成果）

・子ども達は草刈り・稲刈りにおいての鎌の使用、足踏み脱穀機の使用、案山子作りなど、機械でのそれと比べてより体感的な活動を経験でき、結果として楽しく稲作に取り組むことができた。

・琵琶湖でのカヤック体験・水遊びを通して、琵琶湖の波や、湖のにおいを感じるなど琵琶湖という自然を体感できた。

・普段からごく当たり前に食べているお米だが、自分で作り、自分で作ったお米を食べるという経験を通して、結果として子ども達は農業を身近なものとして感じることができた。

・田植え、草刈り、稲刈りなどにおいて阪神間の子ども達が、高島町の子どもに方法を教えてもらうなどの協同作業を行い、結果として県を越えた異なる境に住む同世代の子ども達との交流の機会を提供するという本事業の大きな的の１つは達成された。このことは、イベント期間中数名の子ども達ら、高島町の友達と手紙のやり取りをしているという報告を受けたことから考察できる。

・高島町子ども会や高島町農林水産課の協力を得て今回の事業を実施したが、今後も交流を図っていきたい。

グループ名

ワールドキッズコミュニティ

〔所在地〕　〒 653-0052 神戸市長田区海運町３－３－８
〔連絡先〕　TEL　０７８－７３６－３０１２
FAX　０７８－７３１－６９２７

〔グループの紹介〕

多様な文化的・社会的背景を持つ子どもたちが増加する今日、日本の教育現場において、こうした子どもたちへの対応は不十分である。子どもたちが「違い」を恐れることなく、自己のアイデンティティを確立できる環境作りが必要不可欠である。

多民族・多文化共生社会を築くため、異文化理解と体験の機会を提供している。

事業名	ワールドキッズコミュニティプログラム ～地域でのスポーツと異文化交流による青少年育成
事業実施期間	2001年6月10日～2002年3月31日

（実施内容）

被災地の外国人の子どもたちと日本人の子どもたちが、スポーツを通じて異文化体験や異文化への理解の機会を提供するため、サッカー教室やサッカー大会を開催した。

○サッカー教室

日時　毎週日曜日（2001年６月10日～2002年３月31日）午後1時～4時
（2001年7月31日はフットサル（５人制サッカー）大会実施）

場所　神戸市須磨区　マリスト国際学校

参加者　幼児２人、小学生26人、中学生16人、ボランティア11人、スタッフ３人、その他142人　合計200人

○メンバー合宿

日時　2001 年8月19　20日

場所　神戸市北区　しあわせの村

参加者　幼児２人、小学生 20 人、中学生４人、スタッフ 16 人　合計 42 人

（事業成果）

・スポーツを通じ、共に楽しみながら、準備作業を共に行うことで、青少年達が国籍や年齢、性別に関わらず、異文化に対する理解を養う機会を提供できた。

・地域に暮らす外国人の青少年たちは、本事業参加から、新たな仲間や居場所を発見したことで自身がつき、日本人でないことに気後れせず、堂々と自分の国のことを語れる機会が増え、アイデンティティ確立へ助力できた。

・本事業参加により、地域の同じ立場の子どもたちのリーダーとしての責任感を養い、コミュニティの自立へ前進できた。

・本事業によりフットサルチームが誕生し、地域のリーグに加盟したことで、地域に暮らす同世代の青少年との交流ができた。加えて、本事業の定期的な練習の成果が発揮されそのリーグ戦にて優勝するなど、青少年育成に大きく貢献できた。

・多様な文化・言語背景を持つ青少年と一緒に作業を行うことは、予想以上に体力と柔軟な態度が求められる。多くのボランティアに支えられ運営を行ったが、臨機応変に対応出来るボランティアスタッフの人員確保が難しい。地域社会で市民活動参加が叫ばれる中、「ボランティアスタッフ」を育成する場作りも今後必要であると感じた。

・地域住民がボランティアを希望した際、適切に活躍出来る場の継続も考えていきたい。

・本事業の活動状況より、本年度で終了せず、可能な限り持続させていきたい。

・また、益々彼らの技術向上に、協力していきたい。

・本事業による地域との関わりの広がり等を今後も活かし、異文化交流の輪を広げていきたい。

・本事業で成長した青少年が、次世代のコミュニティリーダーとして育っていくように今後も助力していきたい。